

## 働きやすい環境で人材確保に取り組む物流施設

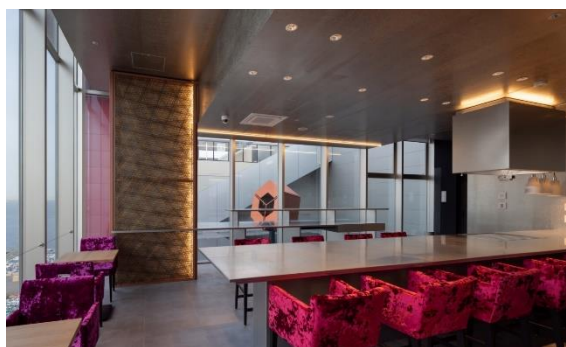
### ◆東扇島に国内最大級の物流施設が誕生、注目されるのは快適な労働環境

ネット通販の拡大を背景に、物流施設の建設が急増している。事業用不動産サービス会社のCBREの調査によると、2023年首都圏で完成予定の物流施設の面積は、合計で300万㎡余りと、3年前の2倍以上になると推計されている。

物流施設の開発・運営でグローバルに展開しているESRは、23年4月、川崎市東扇島にマルチテナント型物流施設「ESR東扇島ディストリビューションセンター」（以下、東扇島DC）を竣工し、23年5月に内覧会を実施した。建物は日本の物流施設としては最高層の9階建て、延べ床面積約35万㎡という国内最大級の規模で、汎用性が高い建築設計と特別高圧電力の供給により、冷蔵冷凍、ロボティクス、ハイスペックな物流システム導入などテナント企業の多様なニーズに対応している。とくに「HUMAN CENTRIC DESIGN」を基本理念とした働く人のための環境づくりは、従来の物流施設には見られなかった充実した環境と評判だ。

### ◆子育て支援策として託児所も併設

東扇島DCは全館稼働した際には約3,000人の雇用創出を見込んでいるが、子育て世代への支援策として、バイリンガル保育を提供する無料の託児所があり、休憩用ラウンジには、プライベートダイニングや24時間営業売店、バーカウンター、ボーリングレーン、マシンジムなどがある。通勤の利便性にも配慮し、東扇島DCとJR川崎駅を送迎する大型バスの運行も開始した。



東扇島DCのプライベートダイニング 写真提供:ESR(株)

こうした動きは他社でもみられ、オリックス不動産は、24年8月完成に向けて、茨城県つくば市に4階建てのマルチテナント型物流施設を建設する。カフェラウンジを充実させるなど「働きやすさ」を追求する施設を計画している。物流施設では、無人化や省力化への取組みが進んでいるが、人材確保策として、今後は働きやすい環境づくりを目指す動きも加速していくと思われる。 【秋元真理子】